

第4期研究高度化中期計画（2021年度～2025年度）に基づき実施される研究高度化推進制度は以下となります。詳細は申請を希望される年度の募集要項をご確認ください。

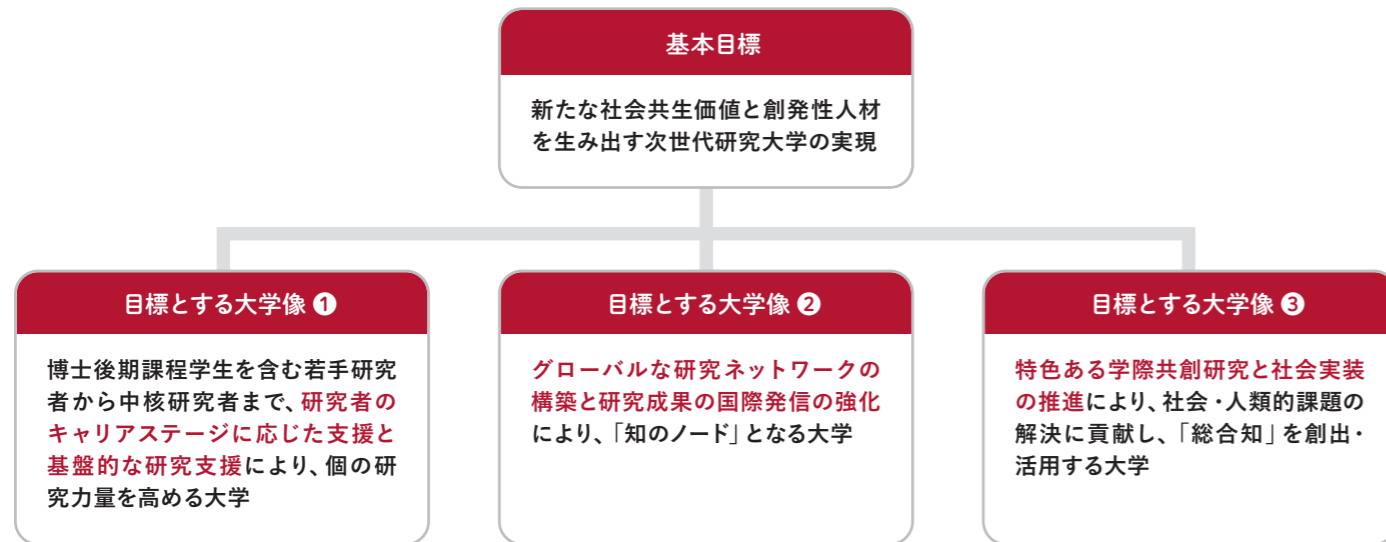
目的	No.	プログラム	主旨	助成金額	募集時期(予定)	カテゴリー	
研究力強化	1	RARAフェロープログラム	立命館先進研究アカデミー（Ritsumeikan Advanced Research Academy; RARA）において、本大学の先導的・先進的研究拠点を形成する中核研究者(RARAフェロー)に対して、研究環境向上に向けたテラーメイドでの支援を行う制度です。	1,000万円 (1名あたりの上限額・単年度)	未定	個人	
	2	RARAアソシエイトフェロープログラム	次世代の中核研究者(RARAフェロー)となることが期待される研究者(RARAアソシエイトフェロー)に対して、研究環境向上に向けたテラーメイドでの支援を行う制度です。	500万円 (1名あたりの上限額・単年度)	未定	個人	
	3	科研費獲得推進プログラム	研究者個人の多様な研究を推進するため、科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金および科学研究費補助金)の申請と獲得を通じて研究者の研究活動の活性化を図るとともに、研究基盤支援の充実と競争的資金のさらなる獲得の増加を目的としています。	20～100万円	5月以降 随時	個人	
	4	科研費獲得プログラム (学術変革領域研究(A・B)挑戦型)			5月		
	5	女性研究者 国際共同研究活動支援制度	女性研究者の研究力向上および上位職登用の促進を図る取組の一環として、女性研究者の海外渡航費用、国外の大学や研究機関との共同研究費用の全額または一部を助成します。また、家族のケアを担う研究者が研究を中断することなく、キャリア形成の機会を得ることを支援するため、海外渡航に伴う子どもの帯同費用や不在期間中の介護費用等も支給します。	(1)国際共同研究 リーダーカアップ区分: 最大300万円/年度 (2)国際共同研究 スタートアップ区分: 最大150万円/年度	3月	個人	
国際研究力強化	6	国際共同研究促進プログラム	海外の有力大学との研究連携および海外研究者との研究ネットワークの形成と国際共同研究を促進することで、RKN(Ritsumeikan Knowledge Nodes)を具現化し、国際的な認知度向上を図ることを目的に、本制度は実施されます。	共同研究型 上限400万円/年 (2年間) スタートアップ型 上限100万円/年 (1年間)	12月	個人 グループ	
	7	ANU-RU Visiting Researcher's Program	オーストラリア国立大学(ANU)の研究者と本大学の研究者が共同で研究を行うことを支援するプログラムです。「受入スキーム」「派遣スキーム」とともに相手方の大学に短期間(最長3か月間)滞在することを前提にしています。	受入スキーム:研究活動支援金上限100万円 派遣スキーム:ANUとの調整の上決定	未定	個人	
	8	ノースウェスタン大学との協力協定に基づく成果発信プログラム	ノースウェスタン大学が所管するMeridian 180という学術交流プラットフォームで議論を行った結果を基に、ノースウェスタン大学の出版局からe-bookを出版することを目指すプログラムです。	全体予算の上限 500万円	2月	個人	
	9	平井嘉一郎 海外研究者支援奨励制度	本プログラムは、ニチコン株式会社創業者の故平井嘉一郎氏(名誉館賓、法学部 1940年卒)のご令室・名誉館賓の平井信子様のご厚意により、海外の研究者が、平井嘉一郎記念図書館を利用して行う国際的な研究活動を支援・奨励し、国際間の相互協力と理解を深めるとともに、国際社会での活躍が期待される優秀な研究者を育成・輩出することを目的として創設された制度です。	奨励金:50万円	1月	個人	
	10	ソーニャ&加藤周一・ 若手研究者育成プログラム	本プログラムは、加藤周一氏の御息女であるソーニャ・カトー氏の御厚志により、加藤周一氏の思想研究、あるいはウィーンおよびオーストリアに関わる主題を追究する若手研究者を育成し支援することを目的としています。本プログラムの採択者は、国際的知識人であった加藤周一氏と同様に、国際都市ウィーンに滞在し、現地の大学図書館や博物館を利用し、ソーニャ・カトー氏ならびにその御家族との知的交流を通じて、加藤周一氏の思想と行動、ウィーンの文化やヨーロッパの歴史を学び、国際的理解を深め、立命館大学を代表する国際的知識人となることを目指すプログラムです。	1.立命館大学からの助成 ①日本ーウィーンの 往復エコノミー運賃 ②大学が指定する 海外旅行保険の料金 2.ソーニャ・カトー氏 からの助成 ①滞り場所の提供 ②毎週100ユーロの 現金支給	未定	個人	
	社会実装の推進	11	産総研融合シーズ・ スプラウトプログラム	「産学官融合イノベーション」の考え方の下、産総研および立命館が共同して研究ファンドを措置することで、両組織の保有する研究の種(シーズ)を発芽(スプラウト)させ、産学官融合イノベーションの創出につなげることを目指します。	1融合シーズにつき 上限100万円/年度 (予定)	6月	個人
		12	グラスルーツ・イノベーション プログラム	グラスルーツ・イノベーションを起こすことを目的に、地域・自治体などに内在する課題について、研究成果を活用することによって解決を図るべく、その検証を行うための取り組みを助成する。	100万円 (上限)	6月	グループ
	研究拠点形成	13	研究所 重点研究プログラム	学内外の研究動向を踏まえ萌芽的な研究を発掘し、組織的な支援を通じて研究活動を発展させることは研究所の重要な役割となることから、研究所としての重点研究プロジェクトを設定し推進する取り組みに対して支援を行うと同時に重点研究プロジェクトに若手研究者の参画を促し、研究所の特徴化と若手研究者育成を促進することを目的に、本制度は実施されます。	タイプA 500万円(上限) タイプB 1,000～2,000万円	12月	グループ
		14	第4期拠点形成型 R-GIRO研究プログラム	学長直轄の研究組織である立命館グローバル・イノベーション研究機構において、自然環境の変化および人口・年齢構成の変化の挑戦をテーマとした立命館らしい研究拠点形成を目的とした制度であり、次世代を担う若手研究者育成も目的としています。	1プロジェクトにつき 3,000万円程度/年度	新規募集 終了	グループ

目的	No.	プログラム	主旨	助成金額	募集時期(予定)	カテゴリー
研究拠点形成	15	アジア・日本研究推進 プログラム	学長直轄の研究組織である立命館アジア・日本研究機構において、アジアにおける様々な課題の解決を目指す研究拠点の形成を目的とした制度であり、次世代を担う若手研究者育成も目的としています。	1プロジェクトにつき 最大600万円/年度	7月	グループ
若手研究者の育成	16	RARA学生フェロープログラム (2023年度入学者まで)	優秀で意欲のある博士課程後期課程学生に対して、研究活動支援金(年額216万円)・研究費(年額34万円(上限))の支給とRARAをフィールドに、育成を行います。	研究活動支援金 年額216万円	9月/1月	個人
	17	NEXT学生フェロープログラム (2023年度入学者まで)	優秀で意欲のある博士課程後期課程学生に対して、研究専念支援金(年額216万円)・研究費(年額34万円(上限))の支給と学際的で先端的な研究に専念できる環境を提供することにより、後期課程修了時までに高度専門人財としての資質を獲得することを支援します。	研究費 年額34万円(上限)		
	18	若手研究者育成プログラム	国内外の教育・研究機関、企業(研究職)等で活躍できる若手研究者の育成を図るとともに、本大学にて学位を取得した若手研究者が、学内研究拠点等における研究者ネットワークの中で研究力量を涵養し、次なるキャリアポストの獲得を促進し、また将来的に本大学において中核研究者として他の研究者を巻き込んで活躍するような人材育成も企図することを目的とした制度です。	年俸396万円(税込)	10月	個人
	19	女性研究者キャリアパス 支援プログラム	本プログラムは、立命館大学に所属する専門研究員のうち、本大学において継続的な研究活動を引き続き行うことで今後の活躍が期待できると判断される優秀な研究者について、キャリアパスを積極的に支援することを目的とする制度です。	年俸480万円(税込)	9月	個人
研究成果発信	20	ハイ・インパクトジャーナル 投稿支援プログラム	影響度の高いジャーナルへの投稿を積極的に支援します。	校正費 (上限10万円/1件) 投稿費 (上限40万円/1件)	随時	個人
	21	学術図書出版推進プログラム	専門分野における優れた研究業績、若手研究者への支援および英語等外国語による国際的な成果発信を促進することを目的とし、刊行する学術図書の出版助成を行います。	100万円 (上限)	12月	個人 グループ
	22	研究成果国際発信制度 (研究者海外渡航支援制度)	研究の国際的な発信を目的として、国外で開催される国際的な学会・会議などにおける、成果発表や国際的なネットワーク形成に要する旅費を支援します。	10万円 (上限)	随時	個人
	23	研究成果国際発信制度 (外国語論文投稿支援制度)	研究の国際的な発信を促進することを目的として、外国語論文の投稿に必要な外国語論文校正費および論文投稿費を支援します。	外国語論文校正費 (上限5万円/1件) 外国語ジャーナル投稿費 (上限5万円/1件)	随時	個人
	24	研究成果国際発信制度 (海外研究者短期招聘支援制度)	国際的な交流やシンポジウムの開催時に海外研究者の招聘を支援し、国際研究交流の加速を図ることを目的とし、招聘にかかる経費を支援します。	20万円 (上限)	随時	個人
	25	研究成果国際発信制度 (外国語HP作成支援制度)	研究の国際的な発信を目的として、ホームページを外国語対応させる際に必要な経費を支援します。	20万円 (上限)	随時	個人
	26	学会開催補助 (補助金)	本学を会場として開催される学会のうち、要件を満たすものについて開催経費の一部を補助対象とする制度です。	10万円 (上限)	随時	グループ
	27	学会開催補助 (施設利用料免除)	本学を会場として開催される学会のうち、要件を満たすものについて施設等使用料(清掃費を除く)を免除する制度です。	施設等使用料免除	随時	グループ
その他の制度	28	専任教員学外研究制度		330万円 (上限)	6月	個人
	29	助教学外研究制度	本大学の教学の発展充実と学術研究の振興を図ることを目的として、学外研究期間中の授業等の免除を行い、研究または調査への専念する時間を保証することを目的とした制度です。	200万円 (上限)	5月	個人
	30	研究専念教員制度		—	開始日の 3カ月前	個人
	31	個人研究費	個人の日常的な研究を助成することにより、本学の研究水準の維持向上、研究の高度化に資することを目的としています。	39万円	2月	個人
	32	ライフイベントに関わる 研究支援員制度	出産・育児・介護等のライフイベントと研究活動の両立支援を目的とした制度です。	30万円 (1期上限)	7月・12月	個人

立命館大学の研究ビジョン

立命館大学では2030年に向けた本学圏の新たな目標設定となる2030チャレンジ・デザインを定めています。2021年度からは「立命館大学第4期研究高度化中期計画（2021～2025年度）」を新たに策定し、「新たな社会共生価値と創発性人材を生み出す次世代研究大学の実現」を基本目標とし、この基本目標を達成するため、3つの大学像を、第4期研究高度化中期計画の3つの目標と位置付けています。

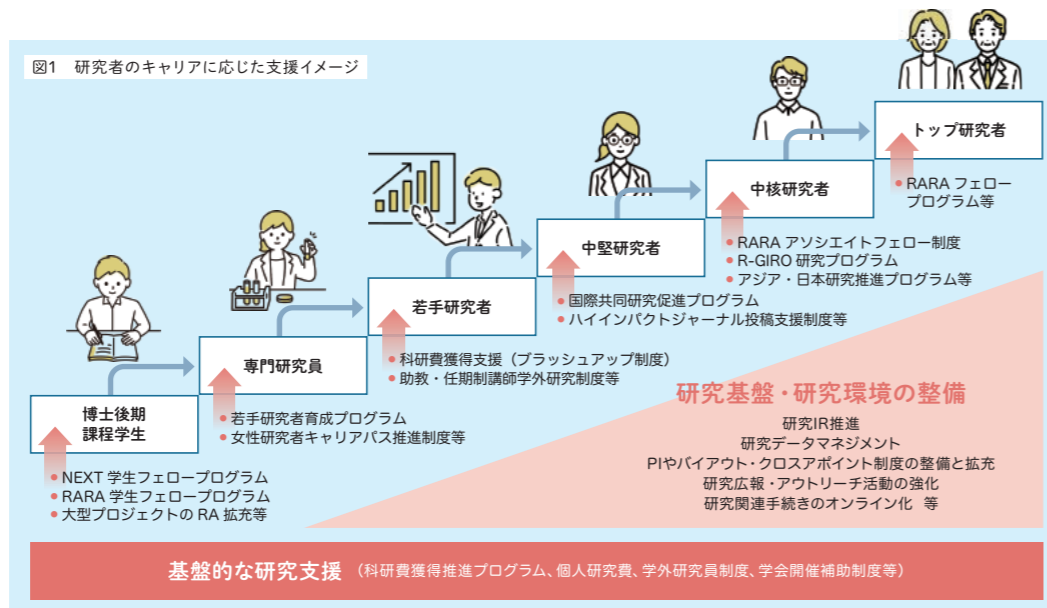
1. 第4期研究高度化中期計画（2021年度～2025年度）



目標とする3つの大学像

目標とする大学像 ①
博士後期課程学生を含む若手研究者から中核研究者まで、研究者のキャリアステージに応じた支援と基盤的な研究支援により、個の研究力量を高める大学

一人ひとりの研究者が個の能力を最大限に発揮できるように、キャリアに応じた支援を行うことで、各分野での評価を高め、ひいては大学全体の総合的な研究力向上につなげることを目的とします。(図1)

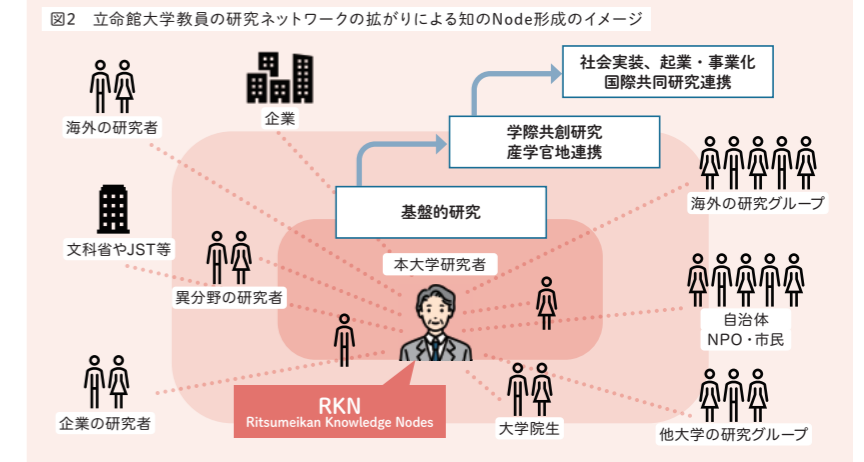


目標とする大学像 ②

グローバルな研究ネットワークの構築と研究成果の国際発信の強化により、「知のノード」となる大学

R2030 チャレンジ・デザインでは、Ritsumeikan Knowledge Nodes (RKN) の構築が提起されています。

RKNでは、「本学の学部・研究科、研究機構・センター、そしてそこで研究に取り組む個々の研究者が、自らの研究ポテンシャルを最大限に実現できる 仕組みを基盤として構築しつつ、海外の大学・研究機関や国際機関、さらに企業、NGO、国内・海外の研究者等とのネットワークの全学的な可視化を通じて、継続的なパートナーシップを拡大的に構築し、サイバーとリアルが連動する国際的ネットワークにおいて立命館大学が重要かつユニークな『知のノード』となることを目指す」ことが確認されています。本大学が Ritsumeikan Knowledge Nodes (RKN) のハブとなっていくために、次世代研究大学を牽引する研究拠点開発の推進も求められ、この全学課題を研究高度化中期計画と連動させて具体化していきます。(図2)

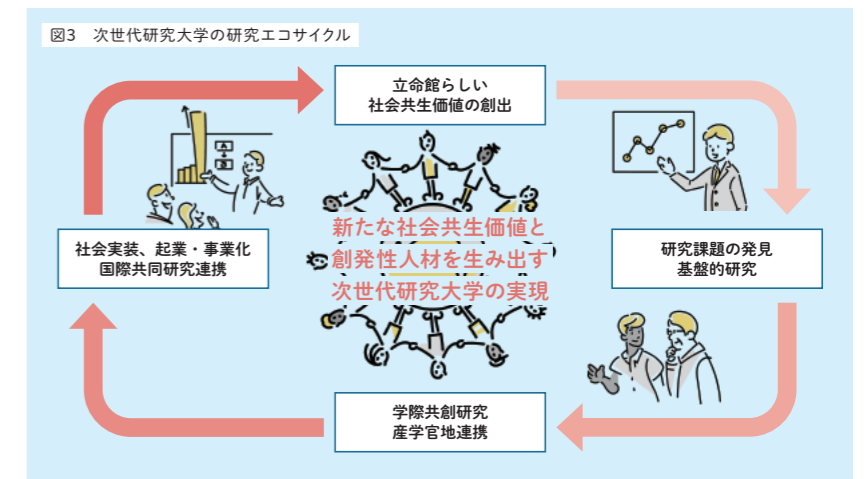


目標とする大学像 ③

特色ある学際共創研究と社会実装の推進により、社会・人類的課題の解決に貢献し、「総合知」を創出・活用する大学

これまで本大学では総合大学ならではの特色を活かして社会課題を解決することを目的に、地域共創分野の研究や地域研究を伴う研究コミュニティの形成、SDGs 対応等のソーシャルインパクトをもたらし活動や研究の多様性を尊重したボトムアップ型のクロスフィールド研究を推進し、そのなかの優れた研究プロジェクトの国際的認知を高める支援を行うとともに、立命館グローバルイノベーション研究機構 (R-GIRO) や立命館アジア・日本研究機構における先鋭的な研究活動、ならびに研究所重点研究プログラム、研究拠点形成支援プログラムでリードしてきた課題解決型融合研究活動が進められてきました。

多様なネットワークに支えられたダイバーシティ豊かな環境のもとに、大学が先導する研究プロジェクトと若手研究者育成等の大学院高度化施策との連携をはかりながら、さらに研究高度化を推進していきます。(図3)



2. R2030チャレンジ・デザイン前半期（2021年度～2025年度）のKGIおよびKPI

3つの目標に対する研究高度化の達成度は、R2030 チャレンジ・デザインにおいて定められた指標 (KGIおよびKPI) により把握・評価します。

KGI : Key Goal Indicator	KPI : Key Performance Indicator
<ul style="list-style-type: none"> QS世界大学ランキング 301～400位(801～1000位) THEインパクトランキング 101～200位(201～300位) Top10%国際共著論文 160本/年(80本/年) 科研費大型種目<A以上>採択数 10件/年(5件/年) 外部資金獲得額 50億円(33.5億円) 	<ul style="list-style-type: none"> QS世界大学ランキング学術者評価 評価者数 300名(86名) THEインパクトランキング 評価ポイント 84.0(75.4) 科研費各種目の採択件数、採択金額 790件(690件)、18億円(14億円) 産学官地連携による外部資金額 11億円(7.3億円) 海外派遣研究者数、受入研究者数 1,334名(7名)、440名(140名) 国際共著率、ハイインパクトジャーナル投稿数 33.3% (29.2%)、200件(94件) 研究所、研究センタープロジェクト等への大学院生の参加者数 博士後期課程学生300名(D191名)、博士前期課程学生300名(M192名)

*KGI・KPIは2025年度目標、カッコ内は2020年度実績を示す。